

目的 さきの人たちが、現代社会の特質を文学や哲学の立場から述べてきた。たしかに現代において人びとは、深い虚脱感と精神的困惑に陥っている。この状況から脱却し、真の人間性を回復させるためには内部空間＝家において両親の守護のもとに安らぎと平安に満ちた雰囲気にはたらせるだけでなく、積極的に愛をもつてはたらしかけねばならない。その方策の一つとして、家庭における幼児教育が重要となってくる

方法 古代ギリシアの哲学者たちの思想に手がかりを求めて、問題を単純で基本的な形に引き戻して考えてみたい。主たる使用テキスト、プラトン「国家」第二巻、旧約聖書「創世紀」

結果 子どもは柔軟な存在で容易に形づくられ、強い定着性をもつ（プラトン「国家」377b）、教育は無意図的で自然なかたちで行われる。（401c）したがって、外からの感化を受けるため重要な時期である。そこで家庭においてソロバンやピアノ、語学等の塾に通わせるだけではなく、人間本来の徳（アレテー）である善美を愛する心を育てる配慮も必要である（353c）。かくしてこの心情（正しいドクサ）は、理性のめざめをまつて、個的人間に高揚する可能性をもつ（402a）。